

ブラジル ARAPUCEL 小水力発電プロジェクト

国連登録 0530 : -ARAPUCEL- Small Hydroelectric Power Plants Project



排出権の種類: 認証排出削減量 (Certified Emission Reductions、略称CER)

京都議定書で規定された発展途上国への地球温暖化対策のための技術・資金援助スキームであるクリーン開発メカニズム (CDM) のルールに則って温室効果ガスを削減し、その排出削減量に基づき発行される国連認証のクレジット(排出権)

本事業の概要: 本プロジェクトはブラジル・マットグロッソ州にあるジャウル川の水流を利用して発電する小水力発電CDM事業である。水力発電所はジャウル川に沿って3箇所設置しており、それぞれ20MW、28MW、26MWの電力を生み出すことが可能である。本プロジェクトを実施する目的は、水力発電を行うことで火力発電の代替電力となり二酸化炭素を削減することである。クリーンなエネルギーを普及させていくブラジルへの貢献を通して地球温暖化防止に貢献することができる。

期待される効果: 本プロジェクトを実施した結果により以下の5つの効果が期待されている。

①天然ガス・化石燃料の使用により排出される温室効果ガスを削減することができ、水力発電によるクリーンな電力の選択により、大気環境が改善された。②本プロジェクトの地域は地方に位置し、現在送電線からの安定的な電力の供給を受けることが難しい。本プロジェクトにより電力供給が行われるとこの地域に安定な電力が供給されている。③現地の約2000人の市民の中から本プロジェクトに必要な労働力のほとんどをまかなうことができ、雇用が創出された。④雇用の創出により所得が上がり、電力価格が安価になったため現地住民の生活の質が向上した。⑤現地の子ども達への環境教育活動やリーダーからの技術的なプロ教育、3R活動の推進など「目的達成に向けて効果的に進めていく力を教育するCapacity Building」というアプローチを取り入れ、現地社会に対して環境活動を行われた。

このようなCDMプロジェクトにより、ブラジルの再生可能エネルギーの普及と持続可能な未来に向けての貢献が期待されている。

推定削減総量: 748,470 tCO₂e

推定年平均削減量: 106,924 tCO₂e/年

対象削減温室効果ガス: 二酸化炭素

クレジット発生期間: 2002年～2009年

